

・木更津砂、高速料アップで値上げ

デイ・シイ(本社・神奈川県川崎市)など千葉県木更津地区の砂販売業社は、4月からの一部高速道路(京葉道路)通行料金の値上がりにもない千葉県の市川や船橋市、東京都の墨田、江東、葛飾、江戸川区などで販売する砂(生コン用細骨材など)を値上げする。高速道路通行料の値上げは、渋滞緩和対策のための拡幅など工事費用を確保するもので、国土交通省が3月6日に発表した。「知ったのは3月中旬。急な値上げに困惑している」(砂販売業者)。「寝耳に水。砂の価格を上げたばかりだが、このまま高速料金を負担し続けることはできない」(大手砂生産業者)とどうしようもない胸の内を明かす。

・千葉中部山砂協組が組合員実態調査

千葉県中部山砂事業協同組合(棚倉英雄理事長、25社)は組合員の山砂採取(製造)事業の実態調査を行った。採取場は君津市の小櫃、小糸地区、富津市の大佐和地区を中心に合計32カ所あり従業員数は正社員だけで800人規模、輸送等の取引社数は約600社にのぼることが推定され、貴重な地場産業として地域経済の発展に大きな貢献をしていることが明らかになった。山砂の需要増により各社とも出荷量を増やしているが、現有採取地の資源(原砂)の不足、設備の老朽化も浮き彫りとなった。

・近畿碎石と大阪府砂利、積み残し分値上げ

大阪北部の碎石製造業者を中心に組織する近畿碎石協同組合と、大阪湾岸向けの製造・輸送・販売業者(碎石、砕砂、海砂等)で組織する大阪府砂利石材協同組合の組合員各社は4月1日以降、積み残し分の値上げを順次要請することにした。各社は昨年6月以降に着値で、700円程度の製品値上げを打ち出し、13年度内に要請額のほぼ半分が浸透したものの生コン市況の低迷など厳しい外部環境のなか末端価格の上昇は足踏み。流通・輸送コスト分の価格転嫁は遅れ、一部海送品の供給が滞るなど事態は深刻さを増す。骨材業界全体として生産・輸送能力が低下しており値上げが十分に浸透しないと、一大需要地の大阪地区の需要量を支えるだけの供給力を保持できず、安定供給が危機的状況に陥ることもあり得る。各社満額の値取りを進める考えだ。

・首都圏骨材、運賃転嫁で輸送力死守

首都圏の骨材各社は値上げ交渉を進めている。約2年越しの強硬な骨材値上げによりユーザー業界も原材料アップ分の価格転嫁を図るため続々と値上げを打ち出したが、生コンは新規契約分からの値上げであるのに加え、工事遅れもあり新価格が十分に浸透せず、4月からの大幅な骨材の値上げ受け入れには慎重。一方の骨材各社は輸送力の低下を防ぐため一刻も早い要求額の値取りを進めている。